

クレセンバ点滴静注用200mg

【この薬は？】

販売名	クレセンバ点滴静注用200mg CRESEMBA for i.v. infusion
一般名	イサブコナゾニウム硫酸塩 Isavuconazonium Sulfate
含有量 (1バイアル中)	イサブコナゾニウム硫酸塩395.0mg (イサブコナゾールとして212mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、深在性真菌症治療剤（アゾール系抗真菌剤）と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、感染症の原因となる真菌（カビの一種）の細胞膜の構成成分の生合成を妨げることにより、抗真菌作用を示します。
- ・次の目的で、医療機関で使用されます。

下記の真菌症の治療

- ・アスペルギルス症（侵襲性アスペルギルス症、慢性進行性肺アスペルギルス症、単純性肺アスペルギローマ）
- ・ムーコル症
- ・クリプトコックス症（肺クリプトコックス症、播種性（はしゅせい）クリプトコックス症（クリプトコックス脳髄膜炎を含む））

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・次の薬を使用している人：リトナビル（ノービア）、コビシスタット含有製剤（ゲンボイヤ、シムツーザ、プレジコビックス）、イトラコナゾール（イトリゾール）、ボリコナゾール（ブイフェンド）、クラリスロマイシン（クラリス、クラリシッド）、リファンピシン（リファジン）、リファブチン（ミコブティン）、カルバマゼピン（テグレトール）、フェノバルビタール（フェノバル）、フェニトイン（アレビアチン、ヒダントール）、ホスフェニトインナトリウム水和物（ホストイン）、ロミタピドメシル酸塩（ジャクスタピッド）
- ・次の食品を使用している人
セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品
- ・過去にこの薬の成分で過敏症のあった人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・過去に他のアゾール系抗真菌剤で過敏症のあった人
- ・先天性QT短縮症候群の人
- ・肝臓に障害がある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬[リトナビル（ノービア）、コビシスタット含有製剤（ゲンボイヤ、シムツーザ、プレジコビックス）、イトラコナゾール（イトリゾール）、ボリコナゾール（ブイフェンド）、クラリスロマイシン（クラリス、クラリシッド）、リファンピシン（リファジン）、リファブチン（ミコブティン）、カルバマゼピン（テグレトール）、フェノバルビタール（フェノバル）、フェニトイン（アレビアチン、ヒダントール）、ホスフェニトインナトリウム水和物（ホストイン）、ロミタピドメシル酸塩（ジャクスタピッド）] や食品[セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品]、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○この薬の使用前に原因となる真菌の培養検査、病理組織学的検査などが行われます。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

点滴回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目以降
前回点滴からの点滴間隔	—	8時間後	8時間後	8時間後	8時間後	8時間後	12～24時間後	24時間後
1回の点滴量	200mg	200mg	200mg	200mg	200mg	200mg	200mg	200mg
備考	1回200mgを約8時間おきに6回、1時間以上かけて点滴静注						6回目の12～24時間後より1日1回、1時間以上かけて点滴静注	1日1回、1時間以上かけて点滴静注

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・肝機能障害があらわれることがありますので、定期的に肝機能検査が行われることがあります。
- ・急性腎障害、腎不全があらわれることがありますので、定期的に腎機能検査が行われることがあります。
- ・QT間隔の短縮があらわれることがありますので定期的に心電図検査が行われることがあります。
- ・妊娠する可能性のある人は、この薬の使用中止及び使用終了後一定期間は適切な避妊をしてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンス・ジョンソン）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する

ンしょうこうぐん)	
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
腎不全 じんふぜん	尿量が減る、むくみ、体がだるい
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白(そうはく)、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸(どうき)、息苦しい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、発熱、むくみ、冷汗が出る、ふらつき
頭部	意識の消失、めまい
顔面	顔面蒼白
眼	目の充血やただれ
口や喉	吐き気、唇や口内のただれ、喉のかゆみ
胸部	動悸、息苦しい
腹部	食欲不振
手・足	手足が冷たくなる
皮膚	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、じんま疹、全身のかゆみ
尿	尿量が減る

【この薬の形は？】

販売名	クレセンバ点滴静注用200mg
性状	白色から黄色の固体又は粉末
形状	注射剤 

【この薬に含まれているのは？】

販売名	クレセンバ点滴静注用 200mg
有効成分	イサブコナゾニウム硫酸塩 395.0mg (イサブコナゾールとして 212mg)
添加剤	D-マンニトール 101.8mg、pH調整剤

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社：旭化成ファーマ株式会社
(<https://www.asahikasei-pharma.co.jp/>)
くすり相談窓口
電話：0120-114-936
受付時間：9:00～17:45（土日祝休業日を除く）